週刊アミューズメントジャパン
Weekly Amusement Japan
©2010 Amusement Press Japan Inc.
editing & publishing／Amusement Press Japan
planning & production／Amusement Promotion
／Up Grade　printing／Four Plus One
本紙記事の無断転載を禁じます。

HEAD LINE

2面 パチンコ 新機種紹介
『CR真・本能寺の変ERW』タイヨーエレック
『CR神魂合体ゴーダンナーMXS』マルホン工業
『CR氷川きよし～きよしの前に座りましょう～』Daiichi
パチスロ『パチスロ「宇宙戦艦ヤマト」』
●『CR真・本能寺の変』プレス発表会　タイヨーエレック
●『CR神魂合体ゴーダンナー』プレス発表会　マルホン工業
●『CR氷川きよし～きよしの前に座りましょう～』プレス発表会　Daiichi
3面 ●新会社・ビージェイ販売を設立　バルテック&JPS
●『CR天上のランプマスター』導入店レポート
●タイヨーエレック・佐藤英理子社長インタビュー
6面 ●企業製品情報

2010年（平成22年）2月22日　月曜日　第214号（毎週1回発行）
APJ
本新聞はヤマト運輸(株)に委託して、ポスト投函方式でお届けしています。（郵便物ではありません）
パチンコ・パチスロ最新機種速報
週刊アミューズメントジャパン
Weekly Amusement Japan
2010年 2月22日 【月曜日】
編集・発行所　株式会社アミューズメント プレス ジャパン　〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-10 えびすアシスト5F　TEL.03-5447-0555　http://www.amusement-japan.co.jp

低玉貸し導入店率9割
福井県は全国の縮図!?

本紙2月1日号で既報の通り、2009年12月末時点におけるパチンコの低玉貸営業実施店の割合が全国で約64%に達した（ビーワールド・インサイト調べ）。なかでも高い数値を示しているのが福井県の89・1%。これだけ急増した背景に、同県特有の事情があるわけではない。言い換えればどの県でも、これだけ増加する下地があるということだ。

大手が中心となり低玉貸しが普及

福井県で低玉貸営業がスタートしたのは2008年夏頃。福井県を中心に、北陸で8店舗を経営するムラタの「クァトロブーム開発店」（福井市、総台数777台）は9月に、1円貸しを40台導入した。同社の石田典宏部長は当時をこう振り返る。

「導入当初は不安もあったが、ふたを開けてみればフル稼働。14割分岐で営業していたので、お客様もストレスなく遊技できたのではないか」

この成功を目の当たりにした競合店が徐々に低玉貸しを導入。それでも08年末では全体の5%程度だったという。

低玉貸しの導入が加速したのは年が明けた09年の初旬。地元大手や、全国チェーンの大手が低玉貸しの導入に踏み切ったことで、「導入店は一気に20%くらいまで伸びた」（石田部長）。貸し玉料金は1円、14割分岐での営業が主流だった。

さらに09年の夏には、大手ホールも低玉貸しの客をこれ以上奪われまいと、お盆を前に中小の不ルでも低玉貸しの導入が進んだ。大手の中には、低玉貸専門店と業態転換を図るホールも登場した。京都に本社を置き、近畿、北陸で24店舗を展開する第一物産の「エンターテイメントオメガ舞屋店」（総台数548台）は、08年8月に低玉貸専門店に業態変換。パチンコの貸し玉料金は1円、2円、パチスロの貸しメダル料金は5円、10円に設定した。

同社の吉村拓朗部長は「これまで系列の2、3店舗で低玉貸しを実施していた企業が、やれるという感触を掴んだため、昨年夏に導入店増、台数増の動きが活発になったのではないかと市場の動きを分析する。

「実際、自社の系列店でも、低玉貸しでも営業は十分に成り立つという手応えがあったので、導入店を増やした」

09年末に、低玉貸しの導入は加速していく。特に、年金生活を送る年配客の多い坂井市やあわら市では、全店が低玉貸しを導入。県内の導入店率が一気に89%まで跳ね上がった。

『クァトロブーム開発店』は、当初40台だった1円貸しを80台まで増台

競合に先駆け低玉貸しを導入した『クァトロブーム開発店』（パチンコ480台、パチスロ297台）

少ない商圏人口に不況が追い打ち

低玉貸し導入店率が上がった要因のひとつには、福井県内のホール軒数が少ないことが挙げられる。P-WORLDに登録されている福井県内のホール数は64軒（2月末現在）。1軒が低玉貸しを導入すれば、上昇率は大きい。

遊技機1台当たりの人口も22・6人と全国で4番目に少ない。ある経営コンサルタントも「台当たりの人口が少なく、さらに全国的に見て所得水準が高いとはいえないので、低玉貸しが広がる下地があった」と見る。

「MAXタイプやミドルタイプの射幸性についていけなくなったファンや遊技回数を増やしたいファンが、低玉貸しへ移行していることも影響している」と言うのは、ムラタの石田部長。

「MAXタイプのお客様がミドルタイプに移行したので、ミドルタイプのお客様は甘デジに移行するかと思ったが、低玉貸しに移行した。お客様にとっては、甘デジも「遊べない」という感覚になっているようだ。低玉貸しが行き場のない お客様の受け皿となり、売上げは減少しているが、商圏の客数自体は横ばい」

第一物産の吉村部長は、デフレに振られた日本経済の影響も大きいのではないかと推測する。

「不況下にあって、お客様は確実に節約志向。商圏の地域振興券の需要も高く、2回目の発行は増刷したほど。4円貸しの投資金額は減少に向かっていて、低玉貸しへの流れは止まる気配がない。自店では低玉貸し専門店になったことで、競合店からは64円客が流れてきている」

これらの事情は福井県に限ったことではない。どの県でも福井県並みに低玉貸し実施店が増加する下地はある、と考えたほうがいいだろう。

パチンコ40銭貸しは「来店動機のひとつになる」と第一物産のの吉村部長

貸し玉料金と交換率で差別化

福井県でも低玉貸しは過当競争に陥りつつある。当然、様々な差別化が行われている。そのひとつが交換率の変更だ。福井市内では、低玉貸しを導入していたホールのうち、4店舗が等価交換へと変更。低玉貸しであっても勝負を求めるお客を集客し、稼働のアップに成功している。

一方で、等価交換に関しては「一時的に稼働は上がるが、利益が出にくい業態。このままではいつか行き詰まるのではないか」と懸念を示すコンサルタントもいる。

貸し玉料金も多様化している。昨年末には「1円25銭」「40銭」といった貸し玉料金が登場。『エンターテイメントオメガ舞屋店』では、昨年12月に貸玉40銭（38台）、貸メダル料金2円（27台）を新たに導入した。

「低玉貸しは過当競争。お客様の来店動機を高めるには、通常貸玉の10倍遊べるという分かりやすさとインパクトが必要だった」（吉村部長）

同店の40銭パチンコでは稼働が3万個を超えるときもあるという。さらに集客力を高めるため、営業の中心である2円貸しに活躍の新台も最速で導入。新台を打てないお客が他の台に流れ、全体の稼働アップにも繋がっている。

4円貸しに比べ粗利の少ない低玉貸しでは、中古機を活用し、機械代を削減することで粗利を確保するという営業スタイルが一般的だ。しかし、ムラタの石田部長は、低玉貸しのほうが、4円貸しより機械代の回収が早いという。

「実験的に新台を4円貸しに15台、1円貸しに4台導入したが、台数が少ないためか、低玉貸しの新台をもちたいというニーズが高く、稼働・粗利ともに高い」

しかし、新台を積極的に導入していこうと考えていた矢先に、等価交換の1円貸しを実施するホールが増えて自店の低玉貸し客が流れてしまった。

福井県における低玉貸しのトレンドは、目まぐるしく変化し続けている。この流れは決して福井県に限ったことではないだろう。第一物産の吉村部長は、低玉貸しの今後の見通しについてこう予測する。

「4円貸しを打っていたお客様は、低玉貸しへさらに移行して行くのではないか。低玉貸しの導入店の伸びは鈍化するだろうが、台数はさらに増え、その先には、さらなる貸し玉料金の多様化が待っているだろう」

パチンコ40銭貸し、パチスロ2円貸しも好調な『エンターテイメントオメガ舞屋店』（パチンコ318台、パチスロ260台）